



ひだまり

第46号

2011年3月

目次

今日日本

人们对农业的关注日渐高涨



© Ohta Masayuki

人物采访

若い力で農業を盛上げたい



発行 財団法人国際文化フォーラム

編集人 中野佳代子

編集・制作 飯野典子

千葉美由紀

長江春子

森本雄心

翻訳・校正協力 シンプルデザイン

執筆協力 原島陽子

財団法人国際文化フォーラム
(TJF)

〒112-0013

東京都文京区音羽 1-17-14

音羽 YK ビル 3 階

電話：81-3-5981-5226

ファックス：81-3-5981-5227

http://www.tjf.or.jp/

E-mail: hidamari@tjf.or.jp

暂停发行《ひだまり》， 以网站的形式统一提供日本信息

TJF在1999年10月创办了《ひだまり》，以每年4期的季刊形式发行。预定在今年发完第48期（9月）后停刊。今后，将以电子邮件及网站的形式，更好地向读者提供服务。

欢迎尽快在电子快报上注册！

《ひだまり》停刊后，TJF与各位老师交流将以《点击日本》网站发行的电子快报（日英双语）为媒介。

电子快报在今年4月创刊，今后我们会通过这份电子快报将网站《点击日本》及有关日语教育方面的信息适时地发送给注册读者。欢迎各位老师尽快在电子快报上注册。注册请点击这里：

<http://link.tjf.or.jp/MMCJP>

① 在此输入您的电子邮件地址

② 点击“入会を申し込む（申请注册）”

③ 在收到注册的确认邮件后，请用收到的邮件回信。

④ 注册后会收到注册完了的自动通知邮件



收到电子快报

新版《点击日本》网站将在今年12月启用

现行版《点击日本》是以《ひだまり》的刊载文章为中心，并介绍一些杂志版面上没有登载的关联信息及有声信息。新版《点击日本》将在设计及内容方面更新现有的形式，预定在今年12月正式启用。

新版《点击日本》在现行版以文字和图片的形式介绍当今日本及日本人的方方面面的基础上，将新增视频部分。此外，新版网站还将把现有的《ひだまり》、《であい》、《日本の小学生生活》等有关日本中小学生的信息以及有关日本教育方面的信息汇总起来，只要进入《点击日本》页面，即可阅览现在日本、日本的中小学生以及日本各种群体的关联信息。

另外，新版《点击日本》还将从高中生学习日语的角度，从寓教于乐、开阔视野、加深对日本的理解上，以及内容的表现形式上下工夫。在此，希望各位老师提出宝贵的意见和建议，协助我们一起办好新版《点击日本》。

恳望协助问卷调查

在TJF已刊行的《ひだまり》文章中，有关内容有趣的、已在教学中使用的、亦或希望今后介绍的内容及话题，请写在附上的问卷调查表格上，并用传真发给我们，或直接在网站的问卷栏内填写。

<http://link.tjf.or.jp/RSCTKC>

为办好新版《点击日本》，敬请各位垂教、鼎力协助为盼。

TJF自4月1日起成为公益财团法人，
更名为日本国际文化交流财团(TJF)。

人们对农业的关注日渐高涨

日本的农业正面临着农业人口减少、老龄化以及农业生产费用减少等诸多课题。但是，为了克服解决这些课题，重新审视农业，探索新型农业发展形式的各种尝试正在日本各地展开。

近几年来，普通市民对于农业的关心日渐高涨，面向商业人士的经济类杂志、以及面向从未与农业打过交道的年轻人的杂志中，登载有关农业方面的特辑越来越多。同时，利用周末租借农田或在都市大厦楼顶、阳台上种植蔬菜的人也越来越多。

本期，就向大家介绍农业方面的这些新动向。



版面中标有这个图标处表示在“点击日本”的网页上登有相关信息。（更详细的说明、更多图片以及登场人物本人的声音等）

<http://www.tjf.or.jp/clicknippon/>

围绕农业的现状

日本自1950年代中期以来，在工业化急剧发展的同时，农业人口开始持续减少，尤其是到了1980年代泡沫经济的鼎盛时期，农业人口出现剧减。并且，随着农业人口的高龄化愈演愈烈，由于后继无人，荒芜的农田也越来越多。此外，伴随全球化的发展，廉价的进口农产品不断增多，导致日本国内农产品的产量不断降低。加之，日本的粮食自给率大约为40%，与其他国家相比，这一比率非常低。如上所述，日本农业呈现弱势化的原因之一，被认为是日本农业政策的失败。战后，为了保护日本人主食——大米的国内生产，政府加大力度管理大米的价格和产量，还向进口大米课以很高的关税，这一施策的结果反而削弱了日本农业整体的竞争力。那么，究竟采取什么措施才能促进农业的发展呢？现在，针对这一问题展开了各种各样的讨论。

（Kitsui=辛苦、Kitanai=脏、Kakkowarui=难看、Kusai=臭、Kasegenai=没钱赚、Kekkondekinai=结不了婚，这6个词的日语词头）来形容农业。为了改变人们的这种印象，2009年，在长野县务农的荻原昌真创办了一本《Agrizm》杂志，介绍在农业方面有所创建的农家人物，传达农业的诱人魅力。此外，2009年设立的NPO组织——农家小子网络，为了支援务农人家，为了使在城市工作的农家孩子继承农业，以及为了支援立志务农的新人，举办了各种各样的讲座及交流会。该组织的代表理事宫治勇辅自身也是大学毕业后，一度进公司就职，4年后辞职继承了家业——农业。宫治的目标是把被称为6K的农业建设成新3K产业（Kakkoyokute=很酷、Kandougatte令人感动、Kasegeru=有钱赚，这3个词的日语词头）。

农业其实很酷！

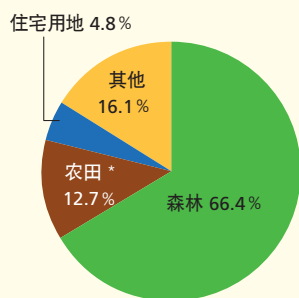
迄今为止，人们对农业的印象并不怎么好，有人用6K

开始务农的新人不断增加

这几年开始涉足农业的年轻人在不断增多。其中，非农家出

从数据看日本农业的特征

日本的土地利用



* 农田面积的一半为稻田

资料来源：日本国土交通省

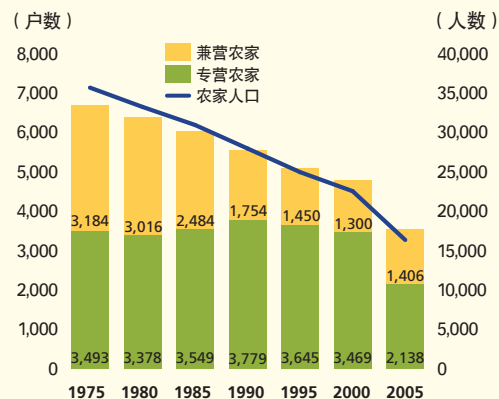
每户平均耕地面积的国际比较

	每户平均耕地面积的国际比较
日本	1.8 ha
美国	180.2 ha
欧盟	16.9 ha
澳大利亚	3,423.8 ha

资料来源：日本农林水产省《农业构造动态调查》（2006年）、美国农业部资料（2005年）、欧洲委员会资料（2005年）、澳大利亚农业资源经济局资料（2004年）

注：日本的数据为务农农家每户经营的平均耕地面积。

农家户数与人口数



资料来源：日本农林水产省《农业统计调查》

Q：请思考一下有什么特征？



可以阅览粮食自给率及食品进出口方面的有关数据。

身的务农新人非常引人注目。观其理由，一是由于人们对农业的看法有所改变；二是由于长年经济衰退，农业成为人们选择职业的侯补之一；还有一点就是由于放宽了政策限制，越来越多的农业生产法人不断涌现。以前，非农家出身的人想要从事农业是很困难的。而现在，即使没有充足的资金和农业技术，只要受雇于农业生产法人就可以从事农业。通过设立农业生产法人，可以实现农业生产的大规模化，可以确保充足的劳动力，这些都是有利之处。

此外，在农业领域开发出新商业模式的创业人、以及进军农业领域的企业也在不断增多。



维系农家与消费者的纽带

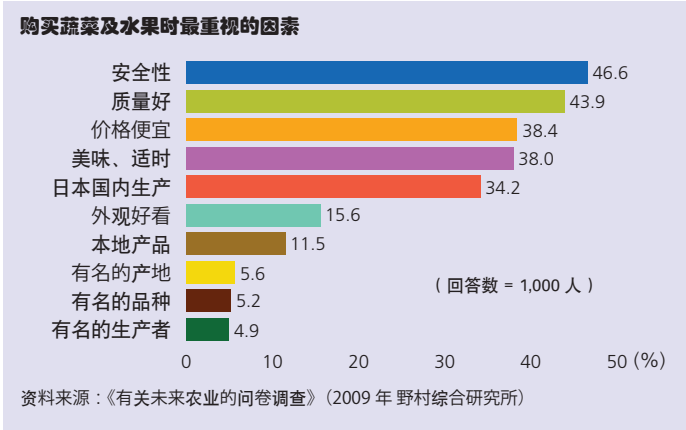
农家种植的蔬菜等农产品送到消费者手中，通常要经过农协、批发商、零售店等环节。对于农家来说，这种方式虽然有不利用自己开拓销路的优点，但同时，由于中间商太多所得利益就会相应减少，或因为产品的外观不好看难以推向市场，造成农产品浪费等缺点。另外，这一方式对于消费者来说也有弊端，因为从农产品收获到出售需要花时间，所以消费者很难买到新鲜的农产品。

为此，最近引人关注的是包括网上销售在内的、农家直接向消费者发货的方式。这一方式不但能够让消费者吃上新鲜的蔬菜，还能够确保农家有较高的利润，此外，这一方式还将消费者和农家密切联系起来，农家想的是“要为那位客户提供美味的产品”，而消费者想的是“那位农人为我们辛勤生产，应该以感激的心情去品尝”，这样就产生了心理上的沟通与交流。

在市场上，生产者可以自由地决定出售产品的种类、数量和价格，一边和消费者聊天，讲述“对产品的‘倾注’”及“产品的魅力”，一边向消费者出售自己的产品。通过这种方式，生产者能够明确了解消费者的需求，消费者也能够放心地购买生产者种植的农产品。



在大厦前的空地上开设的“新城集市”。



MARCHÉ (市场)

MARCHÉ JAPON是地方的农业生产者不通过流通环节直接向消费者出售的市场。2009年秋，在日本农林水产省的支援下，这种类型的市场在日本全国8个城市开始运营。在东京，位于市中心的六本木、赤坂、青山等7个地点每周举办一到两次。在六本木举办“新城集市”，每次大约有30个店铺出摊，每次有2,000~3,000人光顾，非常热闹。

网上销售

还有些农家在网上销售有机蔬菜、无农药蔬菜等产品。即使是小规模的家，也能够通过电子邮件等方式，提供顾客需要的产品及细致的服务，能够将高附加价值的农产品销售给日本全国的消费者。

我的农家

“我的农家”是消费者个人与农家签订合同，由农家定期向消费者送蔬菜（主要是有机蔬菜、无农药蔬菜）的系统。这一系统的利用方法通常是消费者向农家预付货款，使得小规模农家也能稳定生产、经营。而且，由于是定期购买，农产品就能够毫无浪费地用于消费了。



地产地消是指当地收获的农产品在当地消费。由于减少了流通中所需要的时间和成本，因此对于消费者来说，有可以买到既便宜又新鲜的农产品、当地的乡土料理能够得到传承等利点。此外，消费当地产的农产品，还可以期待减少食物里程*值。因为在运送食物的过程中会有大量的二氧化碳排出，所以一般认为食物里程越小对环境越有利，能够为防止全球变暖做出贡献。日本的食物里程值非常高，在全世界也处于高位，按人均来算，排名世界第一，因此，日本需要减少食物里程值。

*食物里程

指的是食物的重量乘以运输距离所得出的数值。也就是说，当食品的生产地和消费地很近的时候食物里程就小，反之食物里程就大。



可以阅览各国的食物里程值图表。

当地的直销点

直销点，是能够方便地购买当地农产品的地方。以前，在日本各地国道路边搭起的小屋里，周边的农家将当日收获的蔬菜、水果等农产品摆在那里销售。大约从15年前开始，地方政府及第三开发机构（由官民联营的机构。相对于第一官方和第二民间而言）在国道沿线设立了称为“道之站”的公共设施，“道之站”

作为当地产品的综合销售场所，受到了人们的关注。

直销点的规模各不相同，有不设营销员的小型无人直销点，也有兼营餐馆的综合型直销点。现在，日本全国已有超过13,000处直销点（2005年农林业统计调查）这个数字超过了日本最大的便利店企业7-Eleven



在直销点的投币货柜中，摆放着各种蔬菜。

的店铺数。许多地方政府也积极利用这些直销点，将其与旅游以及农产品相关的促销活动结合起来，旨在促进当地经济的发展。

校餐

在2006年日本文部科学省制定的食育推进基本计划中，为了继承当地的传统饮食文化、促进农业发展、提高粮食自给率等目的，提出了在学校教育中增加使用当地产品比例的目标。通过在校餐（学校提供的伙食）中，使用当地收获的农产品，可以加深孩子们对当地农业和传统饮食的理解和共鸣。有的学校还结合校餐，开展了体验农活及与生产者进行交流的活动。

在城市中心体验农业的快乐



由于人们对安全蔬菜的意识逐渐增强、反映健康意识的蔬菜热潮的出现以及人们对食物里程的关注等原因，种植蔬菜的人越来越多。据说除了安全、经济、有利于健康、优化环境等理由之外，能接触大自然、种植农产品能得到充实感及成就感也是其魅力之一。

阳台菜园

近年来，在阳台上种植蔬菜的人已经不再罕见。迷你蔬菜、婴儿蔬菜等由于从种植到收获的间隔较短，种植失败的情况较少，所以成为阳台菜园栽培最多的品种。这些品种的生产商也积极进行微型小油菜等迷你、婴儿蔬菜的品种改良。

此外，还出售面向初学者的种苗、花盆、土、肥料等组合起来的套装商品。最近，在书店里也开始出售蔬菜栽培的套装商品，深受人们欢迎。



介绍栽培方法的小册子、种子、栽培容器、肥料、培养土等组合起来的套装商品。（Kodansha 2010）

周末农夫（妇）

以居住在城市里的中老年群体为中心，利用周末和工作之余，租借农园的一角享受农业快乐的周末农夫（妇）不断增多。在东京都内，由区或市运营的市民、区民农园近年来人气攀升，有许多地方还得抽签决定得主。其中，一些配备了辅导员，教授初学者务农的租用农园特别有人气。

据说这种规定了出租期限的租用农园，利用人数已经上升到200万人，大有赶超实际农业人口260万人的势头。借着这股热潮，有些企业还将城市的住宅用地及停车场改成了租用农园。

即使仅仅在周末，能够通过自己动手种植农产品，感受农业的艰辛和乐趣，这一点大约是周末农园的魅力所在吧。

屋顶农园

2001年，东京都修订了自然保护条例，规定占地面积1,000平方米（公共设施250平方米）以上的新建、改建建筑物都有屋顶绿化的义务，为此屋顶农园及菜园等慢慢地多起来了。

NPO大江户蔬菜项目，为了向在城市生活的人提供能够感受农业的场所，在东京都23个区的屋顶农园里栽培有机蔬菜。比如，在六本木新城的楼顶上种植水稻，为孩子们提供体验插秧及收割的机会。虽然城市地区的农业用地年年都在减少，不过利用屋顶建设农园，既能够实现屋顶绿化，又能够满足人们想就近体验农业乐趣的需求。



孩子们在六本木新城的屋顶上体验插秧作业。



农业甲子园

在日本学校的农业俱乐部联盟里，约有农业高中以及农业相关学科的学生90,000人。农业俱乐部联盟举办的全国大赛，又称为农业高中生的甲子园，在大赛上，学习农业的高中生们展示自己的活动成果，相互比试所学的知识和技术。2010年的第61届大赛上，有来自341所学校的3,200人参加。



© Future Farmers of Japan

在农业甲子园大赛上举办的农业鉴定比赛。通过比赛，比试、切磋鉴定技术。

团体的帮助下成立了农业小学。目的在于让孩子们体验农业的艰辛和快乐，培养孩子们的耐苦精神和创造力，懂得对食物的感恩之情。孩子们每月两次，在周六的上午参加水稻或蔬菜等的植苗、除草、脱谷、收割等农活，通过体验全年一系列的农活积累农业经验。此外，农业小学还开设了有关当地传统节日、传统文化及传统饮食的课程。希望孩子们能够通过以上体验，养成敬老爱幼的地域连带感，懂得对食物的感恩之情。

来源: http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h18_h/trend/1/t1_3_4_04.html
http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h18_h/trend/1/t1_1_3_02.html#jc011

在游戏中体验农业



利用网络或手机等体验农业的游戏有很高的人气。比如，“北海道特色农场 大家一起来经营农场@由仁町”以及“农田儿”等电子游戏，在游戏中栽培的蔬菜，还能够通过网络实际购买。诞生于中国SNS上的游戏“阳光牧场”，其注册人数已超过500万人。游戏按播种、收获循序渐进，再通过卖掉收获的农产品获得经验值和金钱，并得以升级。还可以进入SNS内朋友的农田里，帮他们“浇水”、“驱虫”，相反也可以搞些恶作剧，比如“放入虫子”，“偷菜”什么的。



在农业熏陶下健康成长的孩子们

大约有8成的小学、3成的中学都开展农业体验学习活动。通过农业体验活动可以让孩子们感受收获的喜悦，引起孩子们对大自然、生物及饮食的关注和兴趣，加深对农业的理解。为此，8成以上的小学教师对农业体验学习的教育效果持有很高的评价。有些中小学校还在农村、渔村设立了第二学堂，让学生们在那里呆上一个星期左右，体验学习农业等。

另外，在长野县须坂市，在当地的生产者、老人会以及地区



可以阅览有关农业电子游戏的详细信息。

雑学博士

1. 下の野菜は何でしょうか。(a)~(f)から選びましょう。



- (a) アスパラガス (b) ねぎ (c) ブロccoli
(d) たまねぎ (e) しいたけ (f) かぼちゃ

2. 1の野菜の多くは日本で作られていますが、近年、輸入が増えています。それぞれの野菜はどの国から輸入が多いでしょうか。(複数回答)

- (1) ブロccoli (2) たまねぎ (3) しいたけ (4) ねぎ
(5) アスパラガス (6) かぼちゃ

- a. アメリカ b. 中国 c. メキシコ
d. ニュージーランド e. オーストラリア f. チェコスロバキア

かいとう かいせつ けいさい
解答・解説は「ひだまり」ウェブサイトに掲載しています。

<http://www.tjf.or.jp/hidamari/index.htm>

【参考资料】

日本农林水产省《农业构造动态调查》(2006年)、美国农业部资料(2005年)、欧洲委员会资料(2005年)、澳大利亚农业资源经济局资料(2004年): 农林水产省「農業構造動態調査」(2006年)、米国農務省資料(2005年)、欧州委員会資料(2005年)、豪州農業資源経済局資料(2004年)
 日本农林水产省《农业统计调查》: 农林水产省「農業センサス」
 有关未来农业的问卷调查》(2009年 野村综合研究所): 「次世代農業に関するアンケート調査」(2009年 野村総合研究所)

【关键表达对照】

重新审视: 見直す

大厦: ビル

泡沫经济: バブル経済

酷: かっこいい

脏: きたない

臭: 臭い

结不了婚: 結婚できない

有钱挣: 稼げる

充实感: 充実感

需求: ニーズ

便利店: コンビニ (コンビニエンスストア)

校餐: 学校給食

番茄: トマト

婴儿: ベビー

商业人士: ビジネスマン

阳台: ベランダ

全球化: グローバル化

辛苦: きつい

难看: かっこ悪い

没钱挣: 稼げない

令人感动: 感動する

出租农田: レンタルファーム

成就感: 達成感

我的: マイ

活动: イベント

热潮: ブーム

迷你: ミニ

若い力で 農業を盛り上げたい

私は、農家の7代目として農業を仕事にしています。ギャルメイクとおしゃれが大好きです。農業をやっている若い女の子はほとんどいません。そこで、インターネットを活用して、農業をしている全国の若い女性に呼びかけ、「農ing娘。」というグループをつくって、情報交換などを行っています。



みかこ……22才、秋田県在住



みかこさんの声は、「くりっくにっぼん」で聞けます。

小さい頃から、親の農作業を手伝っていましたが、跡を継ぐ気はまったくありませんでした。事務系の仕事に就きたいと思い、高校卒業後、専門学校へ入りました。でも、一日中室内にいるような仕事は合わない気がつき、専門学校を辞めたいと思うようになりました。でも学校を辞めることに反対する両親とはけんかになり、ついに家出しました。すると両親はようやく退学を認めてくれました。家に戻ったものの、やりたいことが見つかりませんでした。何をしたいのか、何をすべきなのかわからず、毎日ぶらぶらと時間を過ごしていました。

そんなとき、両親から農作業を手伝うように言われました。小さい頃は、種の仕分けといった細かく面倒な手作業をさせられていたので、農業はつまらないというイメージをずっともっていました。でも、初めてト



いろいろな機械もひとりで使いこなします。

ラクターを運転させてもらったり、以前はなかったような新しい機械を使わせてもらったりしました。そこで初めて「農業っておもしろい!」と感じ、「地味で単調、つまらない」という農業に対するイメージが消えました。機械を使う楽しさだけでなく、自分で一から育てた農作物を収穫したときの喜びも知りました。そこから次第に農業に「ハマる」ようになりました。

そして今では、お米、ねぎ、玉ねぎ、とうもろこし、なす、トマト、枝豆、じゃがいも、かぼちゃ、チンゲン菜、アスパラガス、キャベツ、白菜などを作っています。

農業を通じて出会った人たち

本格的に農業を始めてみると、さまざまな人との出会いがありました。私はブログやツイッターで日々の様子を発信してい

ます。それらを通じて、農業をしている全国各地の若い女性と知り合えたことは私にとってとても大きな心の支えになっています。彼女たちとは「農ing娘。」というグループをつくり、主にブログやメールで、農業について情報交換したり、いろいろな悩みを相談したり、実際に会って親睦を深めたりしています。現在は20名ほどのメンバーがいます。農業従事者は高齢男性が多いため、今までは、気軽に話をしたり仕事の悩みを相談したりする相手がいなくて、孤独を感じることもありました。インターネットを通じて同世代の女の子と同じ目線で共通の話ができることは本当に嬉しいです。そのほかにも、農家以外の人がたくさん応援してくれるようになりました。私のブログにメッセージを書いてくれたり、会いに来てくれたりする人もいます。とても励まされています。たくさんの人とのつながりや広がり、農業をやっていて一番よかったと思うことです。

農業ブームへの複雑な思い

この数年、「カッコいい」「心の癒し」といったイメージで農業がメディアでよく取り上げられるようになりました。派手でおしゃれな格好で週末などに農業体験をする東京の若いギャルが注目されたりもしています。農業のイメージが良くなって、多くの人が農業に興味をもつことはとてもいいことだと思います。

でも、最近のブームに乗って気軽に農業を始める都会の人は、「癒し」「会社で働くよりも農業のほうが人間関係が煩わしくない」



ネギの皮剥き。畑に出るだけではなく、このような細かく地味な作業がたくさんあります。

「簡単で気晴らしになる」「農業は農作物を育てるだけでいい」というイメージを農業に対してもっている人が多いような気がします。

でも、実際は全く違います。夏は灼熱のなかで作業をしなくてはなりません。体力的にとってもつらくて、「癒し」という甘いものではありません。週末の休みも、長い休みもありません。何時から何時までという定時で働くわけでもありません。農業は一人ではできないので、さまざまな人と関わらなくてはなりません。そのため、人間関係はとても大変です。農作物も作りっぱなしではなくて、利益がでる販売方法を考えなければなりません。気晴らしどころか精神的に追い詰められることもあります。

私の農場でも、ブームに影響を受け農業をしたいという人を数名、研修生として受け入れたことがあります。でも彼らは、イメージと実際の現場のギャップについていけず、「きつい」「休みがない」と文句ばかりを言って挫折しました。

このように、農業で生計を立てるということは、楽なものでも簡単なものでもありません。メディアが農業のイメージを良くして、そのことで多くの人が関心をもってくれることはいいことだと思います。だけど、私は日々真剣に悩みながら農業の厳しさと向きあっているので、農業は楽だからというイメージだけで農業を始める人を見ると、どうしても少し腹立たしい気持ちになります。

不安と闘いながら

もちろん、私だって、挫折しそうになったことはあります。農業を始めたときは、「女のくせに機械に乗るなんて」とブログで悪口を書かれたこともあります。



自分が育てた作物が実ったときは本当に嬉しいです。

また、空き缶を畑に投げ入れられたり、農作物を抜かれたりといった嫌がらせも受けました。農業を始めて4年ですが、大変なことがたくさんあって、何度も嫌になりました。それでも続けることができたのは「ここでやめたら負け」という強い気持ちをもっていたからです。そして、さまざまな人との出会いが支えになりました。

でも今は、その気持ちも少し揺らいできています。いまの日本では農業だけで生計を立てていくには不安なことがとても多いからです。例えば、若い人が不足しているため、高齢者が重労働をしなければなりません。高齢になって農業をやめても、後継者がいなくて作業をする人手も足りなくなると思います。そして安い農作物が海外から輸入されるので国内の農作物の価格

はあまり上がりません。災害で収穫がなくなれば収入もなくなります。多くの農家が利益も少なく不安定な生活を送っています。私自身、このまま何十年も続けていけるかどうか、毎日とても悩んでいます。

それでも、いまはできる限り農業を続けていきたいと思っています。農業を始めてさまざまな世代の人と出会うようになってから、日本の歴史について知る機会が増えました。そのなかで、昔の偉人のことばに興味をもつようになり、彼らのことばや生き方にとっても励まされています。これからはもっと歴史を勉強して、私を含めいまの若い日本人に欠けているものを見つめ直し、不安と戦いながら強い気持ちで農業を続けていきたいと思っています。

みかさんのブログはこちら

<http://ameblo.jp/kodamanojo/>

わたしの好きなもの

好きなこと

化粧すること。特にギャルメイクが好きです。

好きな野菜

玉ねぎ。食感が好きです。

将来の夢

農業を通じて友だちをたくさんつくること。

農業をやっている楽しいと思うこと

色々な人に出会えること。

大好きな、歴史上の偉人のことば

世の人は 我を何とも言わば言え 我が成す事は 我のみぞ知る
(世間の人からどのように批判をされようとも、自分が成し遂げたことは自分だけがわかっている、という意味。)



この記事は2010年12月に行ったインタビューをもとにTJFが構成しました。

将青春献给农业振兴



美花子

22岁 / 秋田县

我作为农家第7代传人从事着农业。我很喜欢少女妆和时尚。但遗憾的是干农活的人当中，年轻的女孩儿几乎看不到。于是，我就在网上呼吁全日本从事农业的年轻女孩儿，一起成立了“农 ing 女孩。”小组，进行交流。

从小我就经常帮父母干农活，但从没想过要继承家业。我原来的计划是将来从事一些事务性的工作，所以高中毕业后就考进了专科学校。但是，我渐渐地发现，那种整天呆在办公室里的工作并不适合我，所以打算退学。但是遭到父母的反对，在和他们大吵一架之后，我离家出走了。不得已父母只好同意我退学，我这才回到家里。虽然我坚持退了学，但我并没有找到自己想做的事情。甚至连自己想做什么，应该做什么，都不知道，每天在家无所事事，眼看着时间在脚下白白流失……。

父母看我在家闲着，就让我去帮他们干农活。小时候，父母总让我干分种子等琐碎麻烦的活儿，所以我一直觉得农活是很无聊的。但有一天，父母第一次让我开了拖拉机，还使用了以前没见过的农业机械。让我第一次感到“农活还挺有趣的呢”，以前对农业的那种“土气、单调、无聊”的印象被一扫而光。在干农活的过程中，我不仅体会到使用农业机械的乐趣，还尝到了收获自己劳动果实的喜悦。就这样，我渐渐迷上了农业。现在，我已经会种很多东西，有水稻、大葱、洋葱、玉米、茄子、西红柿、毛豆、土豆、南瓜、青菜、芦笋、卷心菜、白菜等等。



学会了操作各种农业机械。

通过从事农业结识的人们

真正开始投身农业以后，我结识了很多。因为我经常在博客或微博上记录每天的生活，为此认识了很多在日本各地从事农业的年轻女孩，她们成为我最大的心灵支撑。我们一起成立了“农 ing 女孩。”小组，主要通过博客或者邮件来交流农业信息，倾诉彼此的烦恼，有时也组织聚会，加深感情。现在我们的小组约有 20 名会员。过去，从事农业的大多是高龄的男性，找不到跟自己有共同话题、可以轻松商量工作上烦恼的伙伴，经常觉得很孤单。但是现在，通过网络找到了跟自己同龄的女孩子，大家能从同一个视角探讨共同的话题，真是令人高兴。另外，也有很多农家以外的人声援我们，他们有的在博客上留言，有的还过来看我，让我很受鼓舞。我觉得，能结交朋友、拓宽联系，是我从事农业最快乐的事。

对农业热的复杂心情

近几年，农业被冠以“酷”、“愉悦心灵”等形象在媒体上频频登场。比如，浓妆艳抹、打扮入时，在周末等体验农业的东京姑娘很引人注目。像这样农业形象被提升，引起很多人的兴趣的确是件好事。

但是，在这股农业热影响下，轻易地投身于农业的城市人中，似乎很多人都认为，农业能“休养身心”、“比在公司工作人际关系简单”、“容易、能让人放松”、“只要会种农作物，就能干好农业”。但实际上完全不是这样的。比如，夏天要在骄阳下劳作，非常辛苦，跟“休养身心”完全不是一回事。没有周末，也不能放长假，更没有固定的上下班时间。而且农业一个人是干不来的，要和各种人打交道，人际

关系并不简单。农作物也不是会种就行，还要考虑能获得利益的销售方法。哪里是放松，有时甚至会弄得人精疲力尽。

实际上，我们农场也接受过几位受农业热潮影响想从事农业的实习生。但是，他们接受不了想象与现实的差距，在抱怨“累死了”、“没有休假”后，就打退堂鼓了。

总而言之，以农业为生计，既不轻松也不简单。媒体让大家看到农业好的一面，吸引更多人关心农业是件好事。但是，正因为我每天在烦恼中认真地面对农业严酷的现实，所以看着那些受农业轻松论忽悠开始从事农业的人，难免有些怒从心头起呢。



正在剥葱。除了到农田里干活之外，这种琐碎而枯燥的活也很多。

与不安争斗的同时

当然，我也有过打退堂鼓的想法。刚开始务农的时候，有人在博客里讥笑我“一个女流之辈摆弄什么机械”，还有人往田里扔空罐，拔掉农作物等，故意找我麻烦。从开始务农已经 4 年了，让人苦恼、厌烦的事不一而足，不止一次想过要不干了。但是，我之所以能继续坚持，是因为我有一种强烈的信念：“如果现在罢手了就是认输”。还有就是我遇到了很多支持我的人。

不过现在，这种信念有点开始动摇了。理由是在今天的日本，单纯以农业为生计还是有很多让人不安的地方。比如，因为年轻的劳动力不足，很多高龄者被迫从事一些重体力劳动，而且，一旦这些高龄者退休了，就没有干农活的人了。此外，很多进口的农产品价格都很便宜，使得国内农产品的价格无法上调。如果遇到自然灾害歉收的话，这一年的收入也就没有了。很多农民都过着收入少且不安定的生活。我自己也经常想，照这样下去我能坚持到底吗？每天都很烦恼。

即便如此，我现在还是想尽最大的努力，把农业坚持下去。开始务农以后，结识了不同年龄段的许多人，增加了了解日本历史的机会。在这个过程中，我开始对古人的名言感兴趣，他们的名言、他们的生活方式给了我莫大的鼓励。今后，我想更多地了解日本历史，把包括我在内日本年轻人所欠缺的东西补回来，在与不安的争斗中，鼓足勇气，坚持在农业的道路上走下去。

美花子的博客

<http://ameblo.jp/kodamanojo/>



美花子最喜欢的历史伟人名言。“不管世人如何评论，自己要做的事只有自己知道”

注：本文根据2010年12月的访谈稿汇编。